

業務実施方針等

(1) 業務の理解度及び取組意欲

- ・当該業務の設計に係るチームの基本的姿勢
- ・「共に作り上げる」思いの共有・対話をベースにした体制
私たちは「対話とチェック」を基本に、市民や職員の方の本施設への想いや夢を共有し、地域のコミュニティの核となる施設づくりに全力で取り組みます。
- ・チームの体制、特徴、担当者数及び担当者業務内容
- ・公民館や消防庁舎など公共施設設計のエキスパートにより設計チームを編成
弊社設計部の中でも、公民館や消防庁舎など公共施設の設計経験が豊富なメンバーで設計チームを編成します。豊かな想像力と熱い情熱を持った設計者で業務をまとめ、フレキシブルな空間計画を展開できるようにします。問題の早期解決や新しい発想と提案が出来るよう中堅・若手も含めた社内レビュー・プロジェクト会議を行います。

・人員計画



・実施体制

基本計画、基本設計の段階は、少人数で要求に迅速に応えながら密度の濃い作業を進め、実施設計では設計技術者を増員し、工期内に適切に完了するよう余裕を持たせた人員配置を行います。

- ・基本設計に係る市民との関わり方（市民参加の方法）
- ・市民への説明、意見収集

・市民との対話を大切にして共に創る公民館

- ①市民と共に創る公民館を実現します。そのためには、基本計画の初期段階に公民館・老人福祉センターの利用者や地域の方々にアンケート調査を実施し、新たな公民館への想いや要望をお聞きします。各利用団体やサークル活動の方々、地域の幅広い年齢層の方々とワークショップを開催し、新たな公民館の姿を共に考え計画に反映させていきます。
- ②計画の進捗に合わせて市の協力のもとパブリックコメントや住民説明会を行い、頂いた意見を参考に計画をより向上させます。
★これらのスケジュールを踏まえた設計工程を遵守します。

(2) 業務実施の方針

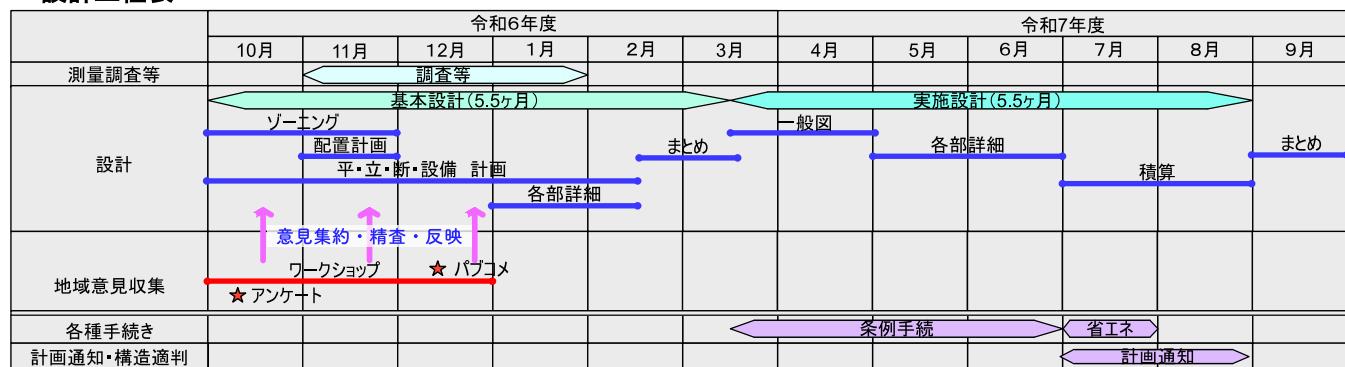
・業務の実施方針

・様々な利用者のニーズに応える公民館を実現します。

公民館は地域のコミュニティの核となる施設であり、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図る施設として位置づけられています。また、老人福祉センターも主に健康増進、教養の向上を目的とした施設です。施設の相乗効果を生み出し、今まで以上に愛され、楽しく便利なふれあいの場であり、かつ災害時は身近で頼れる避難場所となるよう、市の関係者や地域の方々の想いを確実に設計に反映させます。

- ・設計の進め方、手順、工程
- ・市民意見の集約意見検討、精査及び設計への反映

・設計工程表



・市との協議の進め方

定例打合せを中心とし、要望をよく理解し、わかりやすい資料の提供と複数案の提示、適切なVE提案など対話を通じて的確に設計をまとめます。府内用の会議資料など余裕を持って提出します。

・業務成果の品質を向上させる工夫

・設計チームをバックアップする社内体制

人員計画図にある社内バックアップ体制のもと、社内レビュー、プロジェクト会議を隨時開催し、以下の点のチェックをします。

【プロジェクト会議における主なチェック項目】

- ①ニーズに合った設計はできているのか
- ②スケジュール管理はできているのか
- ③打合せの中で設計の変更点はないのか
- ④現時点での問題点はなにか

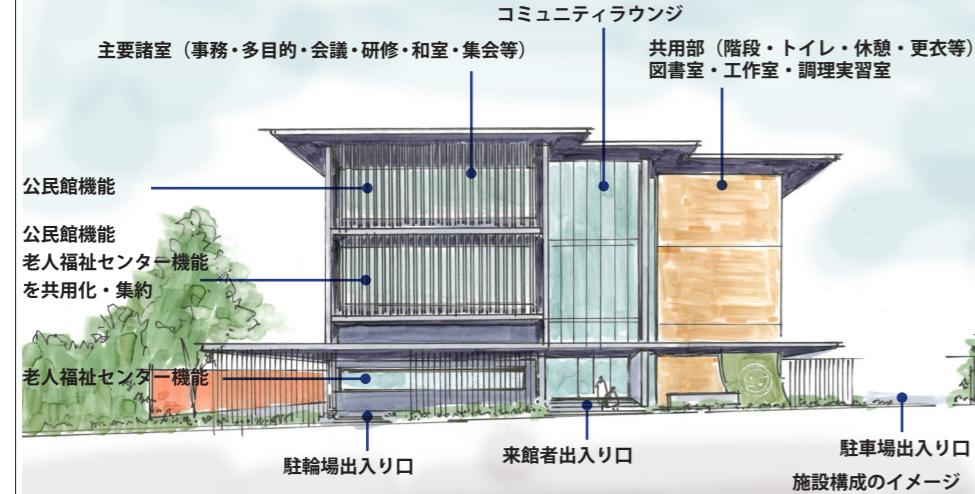
⑤分かりやすく適切な提案はできているか

- ⑥チームワークはうまく取れているのか
- ⑦品質は保たれているのか
- ⑧適正な人員配置は行われているのか
- ⑨コスト管理は適切に行われているのか

評価テーマ 1：異なる施設の有機的な一体化

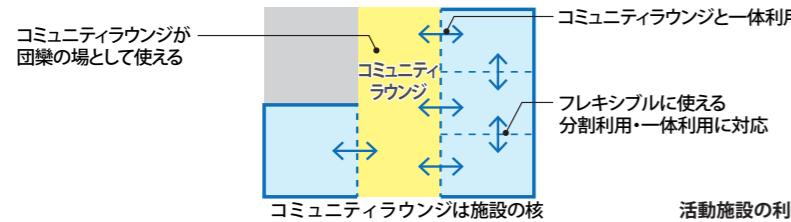
シンプルでわかりやすく、コンパクトな施設計画

蕨市の上位計画では、日本一コンパクトな市域で住みやすさ日本一を目指すと、『コンパクトシティ蕨 将来ビジョンⅡ』を掲げ、まちづくりを進めています。私達は、この理念に沿って様々な経験と培った英知を基に、市民により愛され親しまれる『地域コミュニティの拠点施設』づくりに全力で取り組みます。



東西を貫くコミュニティラウンジが施設全体を柔らかくつなぎます

- 各階に共通して東西を貫くコミュニティラウンジを施設の中央部に設けます。
- 公民館と老人福祉センターの合築では、様々な活動を通して多世代との交流やコミュニティを形成できることが大切です。コミュニティラウンジが施設の核となり、活動空間を様々ななかたちでバックアップします。



- 各諸室がコミュニティラウンジに面して配置されていることから、諸室の単独利用だけではなく、扉の開放などにより分割利用や一体利用も可能で、様々な活動を可能とするフレキシブルな施設を計画します。

明快でシンプルな施設ゾーニング・わかりやすい動線計画

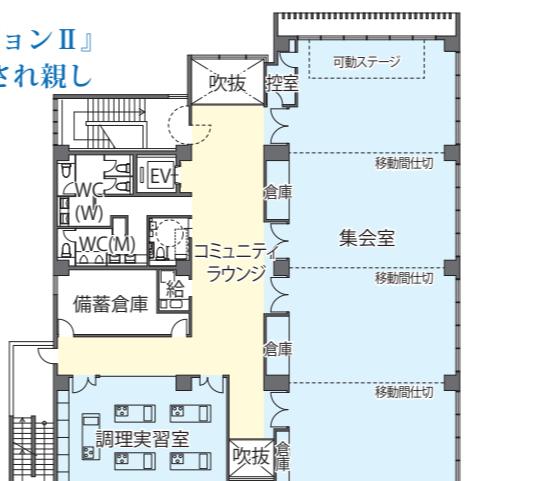
- 明快でシンプルな施設構成とわかりやすいサイン計画により、機能的で使い易い施設を計画します。
- 施設の効率的な配置を工夫することで、主要活動室の面積は概ね要望通り設ける計画とします。しかし、施設全体面積は極力コンパクトにまとめ、1,300m²程度を目標とします。
- 駐車場、駐輪場、来館者出入り口は各専用に設け、歩車分離を徹底した計画とします。

安全で使い易く、将来を見据えた敷地利用計画

- 計画地の一部に利用条件があるため、将来を見据えた駐車場計画とします。現段階の計画が合理的である事と同時に、計画敷地が狭いため少しでも多くの駐車場を早く整備したい要望もあることを考慮し、無駄な工事が発生しない駐車場計画とします。
- 将来の駐車台数は普通車6台、身障者用1台の確保し、北側には道路への出口を設ける事を想定します。敷地西側角は地域のコミュニティ広場として機能し、災害時は防災広場としても活用します。広場には、かまどベンチやマンホールトイレ等が設置できる計画とします。



- 東西に設けた吹き抜けにより風の道を創り、快適環境を実現
- 身障者用トイレを各階に設置
- 防災備蓄倉庫は、3階に設け燃料や飲料水を3日分確保
- 集会室は、可動間仕切りによって分割利用も可能。コミュニティラウンジとの一体利用も可能、可動式舞台を設置 演者控室を隣接配置
- 調理実習室は、コミュニティラウンジに隣接して配置、調理台5台設置



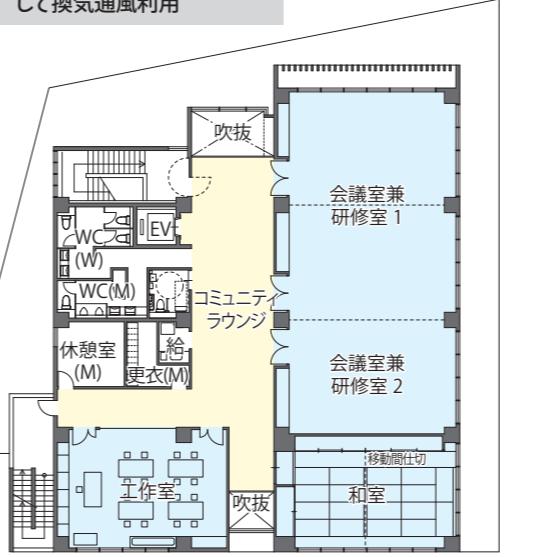
3階平面イメージ

- 会議室兼研修室1・2は、移動間仕切りによって一体利用も可能。コミュニティラウンジとの一体利用も可能

- 更衣室と休憩室は、男女別々にコミュニティラウンジに隣接した静かな場所に配置

- 和室は、コミュニティラウンジ隣接して静かな場所に配置、移動間仕切りで分割利用が可能

- 工作室は、コミュニティラウンジ隣接して静かな場所に配置



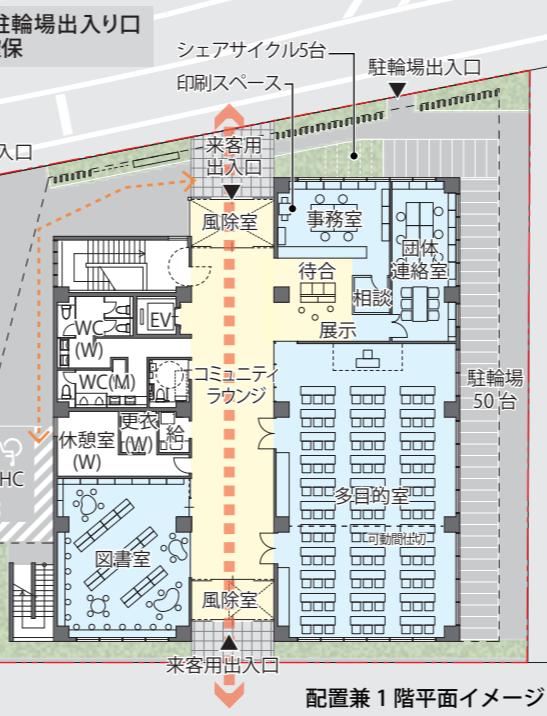
2階平面イメージ

- 事務室付近には相談室を設置 待合付近に展示コーナーを設置

- 駐車場・来客用・駐輪場出入り口を、安全な位置に確保

- 身障者用駐車場は、庇の下で雨に濡れない経路を確保し安全な場所に1台分、一般用駐車場は、敷地北側に4台分確保
- 駐輪場は、南側に歩車分離して確保
- 多目的室は、分割利用が可能、可動式舞台を設置

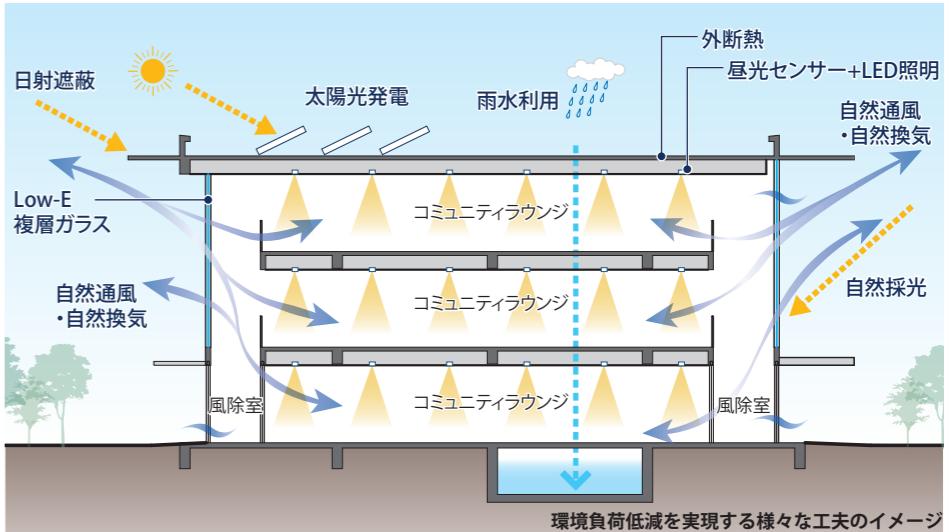
- 図書室は、コミュニティラウンジに隣接して静かな場所に配置
- 窓側に20席程度の自習コーナーを配置 書籍は約6,000冊確保可能



配置兼1階平面イメージ

評価テーマ 2：脱炭素社会の実現に資するための建築計画

地域特性を活かしたエコ建築



ZEB Ready の実現を目指し標準的な建築より光熱水費を大幅に削減

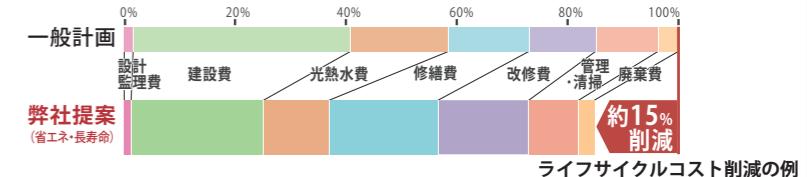
- 先進的な建築として、外皮の高断熱化及び高効率省エネ設備を備えた建築を目指します。照明の省エネ技術（LED照明器具、人感センサー点滅制御、昼光利用調光制御）や、空調負荷の低減（ナイトページ、高断熱ガラス、壁面高断熱化、ルーバー、庇）や空調の省エネ技術（放射空調、地中熱利用等）を検討します。

自然エネルギーを有効活用し心地よい環境を生み出すエコ建築

- 東西を貫くコミュニティラウンジの両側に吹き抜けを設け、風の道を創ることにより外部からの快適な風を取り込み、中間期の自然通風・自然換気に役立ちます。
- 軒や縦格子により直接光を遮り、室内の快適な温熱環境を確保します。

70年間でのライフサイクルコストを約15%削減

- 自然エネルギーの活用や外部熱負荷の低減、高効率な設備機器の採用などで、エネルギーを極力必要としない建築デザイン（パッシブ技術）と普遍的で費用対効果の高い省エネ技術（アクティブ技術）を組み合わせることで、ライフサイクルコストを削減します。
- 機器の長寿命化や改修の容易性に加え、清掃や保守管理のしやすさ等を検証しながら設計します。
- 設計の初期段階から細かな工夫を重ね、使い易く長持ちする建築を実現します。



計画の合理化により初期コストを低減

- 要望を的確に整理し、必要な人数や家具・什器レイアウトなど適切な諸室面積の検討を行うことで、建物全体をコンパクトにおさめ、コスト低減を図ります。
- 整形な建物で施工がしやすく、メンテナンスしやすいディテールや形状を工夫し維持管理に手間のかからない施設とし、建設費も削減します。

省エネ・長寿命化に向けた手法の採用

| 項目 | 細目 | 具体的な取組内容 |
|--------------|---------------|---|
| 運用段階の省エネ・省資源 | 負荷制御 | 高気密・高断熱化、太陽熱高反射塗料 複層/Low-Eガラス、開口部の制限 全熱交換機、温度差換気、個別空調 |
| | 自然エネルギー利用 | 自然採光 自然通風（風力換気） 自然エネルギー利用 エネルギーの効率的利用 負荷平準化 |
| | エネルギー/資源の有効活用 | 搬送エネルギーの最小化 照明エネルギーの最小化 水資源の有効活用 エコマテリアル活用 将来の変化への対応 建築材料の耐久性等 |
| | 長寿命化 | 高天井・天井高のゆとり、床荷重のゆとり、レイアウト自由度が高い整形な室空間 耐久性・耐震性・耐火性・保守性に配慮した材料、スケルトン/インフィルの明確化 設備配管集約配管、保守点検が容易な構造、予備スリーブの確保、余裕ある電気容量 |

評価テーマ 3：災害時における避難施設としての役割

地域の安心安全を支える施設づくり

■平常時の機能が災害時にも活かせる無駄のない BCP 計画

- ・建物は RC 耐震構造とし、耐震性能を高めます。また、設備の耐震化、非構造部材の落下防止対策を万全にした計画とします。
- ・一定期間ライフラインが寸断された場合でも、**十分なバックアップ機能を備えること**で、施設の機能を維持させます。また、日常的にコミュニティを形成する活動拠点となることから、**フェーズフリー施設**として機能し、災害時にも心身へのストレスを軽減する施設として活用できます。
- ・避難所滞在スペースは、感染症対策やプライバシー保護の観点から、パーテーション、テントなどを用いたスペース確保に努め、段ボールベッドによる快適性にも配慮したスペースづくりが重要と考えます。
- ・感染リスクの高い高齢者や基礎疾患を有する方をはじめ、障害を持つ方や妊産婦の方などは、専用スペースを設けるなどの配慮も必要と考えます。

| | | | |
|-----------|--|-----------|-------------------------------------|
| 給水 | 雨水貯留槽 + 防災戸による雑用水の確保 非常用ろ過器による雨水・井水の飲用水利用 | 電気 | 2回線受電による冗長性確保 非常用発電機（72時間分の燃料確保） |
| 排水 | 緊急汚水槽の設置 | ガス | 太陽光発電（30kW）、蓄電池の照明への利用 |
| 設備 | マンホールトイレの設置 | 情報 | LPG バルクタンクの確保、給湯・炊出しへの利用 |
| | 主要設備機器の上階設置 | | 電話回線、防災無線などの通信経路の多重化 |

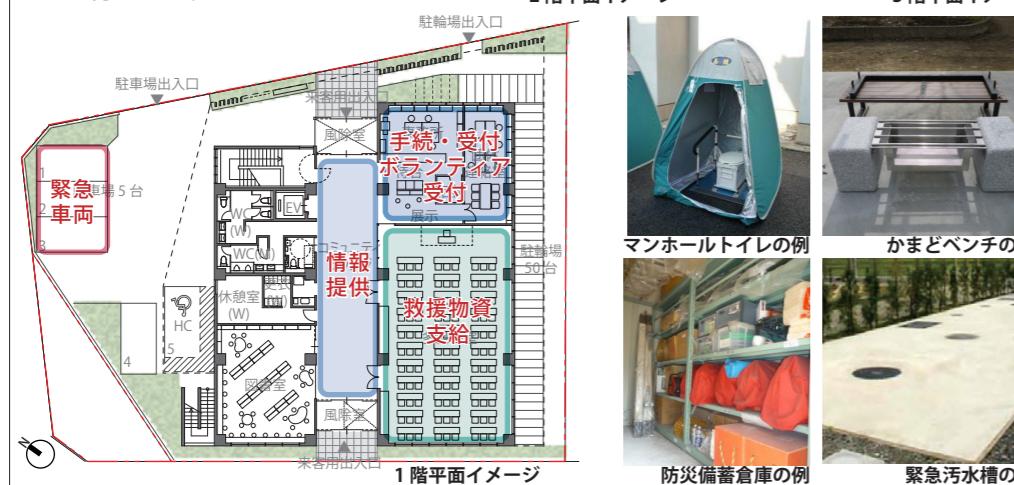
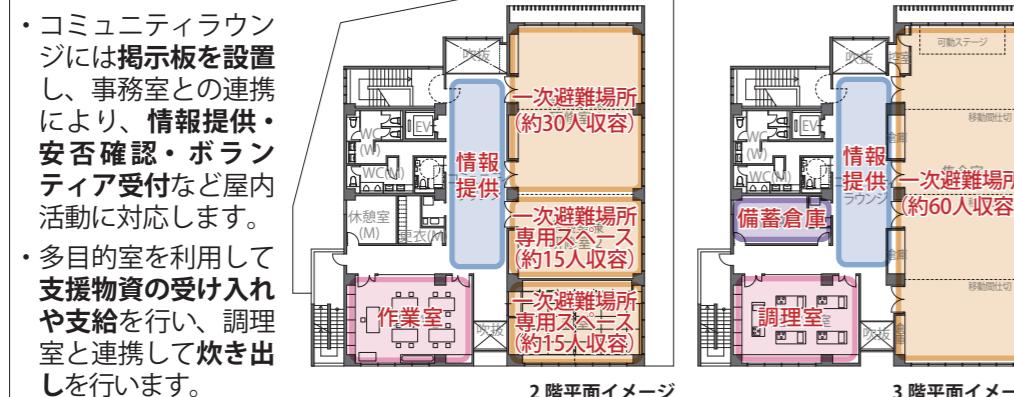
設備のバックアップイメージ

■災害時における設備システムの工夫

- ・空調熱源は電気 + ガスの併用や、空調及び電源の系統分け等、継続供給が可能な計画とします。自家発電設備を設置して避難施設機能を稼働する電源を確保します。
- ・受水槽には緊急遮断弁を設置し、災害時の飲料水を確保します。
- ・太陽光発電を携帯充電等に活用します。
- ・ピット部分に災害時のための緊急汚水槽を設け、マンホールトイレが設置可能な計画とします。
- ・災害時に使用可能なことも考慮し、井水利用を検討します。

■災害時避難場所機能のとして施設を転用するイメージの共有

- ・災害時には、市民・関係者及び関係各省庁等と十分な連携を図り、迅速な対応が可能となる施設整備を行います。従来利用に支障なく施設を転用することで、効果的な施設運用が可能となります。



評価テーマ 4：錦町地区の街並みに溶け込む併まい

錦町地区の閑静な街並みを大切にした景観づくり

計画地は旧中山道に面した懐かしい街並みが続き、閑静なエリアに位置します。むかしから「自然」「歴史と文化」「快適な街の生活」を大切にしていることがよくわかり、豊かな地域資源を活用し、未来へ繋げる活動が息づいています。私達はこの歴史に敬意を払い、新たな錦町の街並みづくりに参画し、活発な市民活動を誘発することで地域の絆が一層強固になり、共に豊かな暮らしを創造できる空間づくりに取り組んでまいります。



■蕨の歴史を感じさせる外観デザイン、錦町の新たなシンボル

- ・歴史的な風情があり、歩いていて楽しい街並みを目指して街づくりが進められている旧中山道界隈は、蕨市の景観特性となっています。歴史を積み重ねた空気や風格のある街並みを壊さず、引き続き市民の郷土意識を高めるシンボルとなるような建物づくりに尽力します。
- ・深い庇や軒や縦格子のデザイン、左官壁や素材感のある壁の採用による「和」を感じさせる落ち着きと風格のある外観デザインを提案します。
- ・建物入り口には蕨市の紋章をいたのれんや、歩道部分は自然石舗装などで、来館者を温かく迎え入れます。
- ・点在する風格のある歴史的建造物が醸し出す蕨の街並みイメージを継承し、これからの中山道沿いの景観形成の模範となるよう計画します。

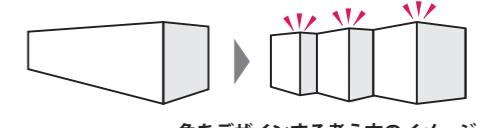


■西小周辺の豊かな並木と連動した華やかに彩る緑化計画

- ・隣接する蕨市立西小学校周辺の豊かな緑は、地域自慢の環境となっています。狭小敷地の計画地で充分な植栽スペースの確保は困難ですが、周辺緑と連動する環境を整えるよう模索し、周辺と一体となった錦町の緑豊かな景観を形成していきます。



西小周辺の豊かな並木

角が増えると
アイキャッチになる

■視認性を高める外観デザイン、新たなシンボルとなる建物配置

- ・建物壁面の道路に対する配置の仕方は、その空間に大きな影響を与えます。計画地は交差点に位置するため、交差点からの見え方に特徴がある、「角のデザイン」を意識した外観デザインとします。
- ・建物には角をいくつか設けることで、通りにアクセントが加わり、アイキャッチとなることから、沿道のにぎわいを創り出す効果があるとともに、新たなシンボルとなります。



(仮称) 蕨市立西公民館等複合施設建設工事設計委託プロポーザル